ファクトシート：ASC とは

目次

ASC(Aquaculture Stewardship Council 水産養殖管理協議会）について
水産養殖の現状
ASC の基準
ASC 認証
養殖場から食卓まで
ASC ラベル
ASC 認証ティラピアについて
ASC 認証パンガシウスについて
ASC 認証サケの現況ついて

ASC(Aquaculture Stewardship Council:水産養殖管理協議会）について

- ASC（水産養殖管理協議会）は、WWF（世界自然保護基金）と持続可能な貿易を推進する団体 IDH (The Sustainable Trade Initiative)により 2010 年に設立された独立した非営利団体である。最善の水産養殖業が世界中で実践されるよう促すための活動に取り組んでおり、すべての人が責任ある養殖場で生産された水産物を選択できる世界の実現を目的としている。
- ASC は水産養殖業を対象とした最も先進的な認証制度を管理している。その認証基準は、養殖業者、沿岸域の地域社会、環境団体、食品会社など、あらゆる関係者とのパートナシップのもとに策定されている。
- ASC 認証製品には、ASC ラベルが付けられる。それにより消費者は、自然環境と社会への悪影響を低減した養殖場で生産される水産物を容易に選択することが可能となる。
- 2012 年の夏以降、以下の 35 の国・地域のスーパーマーケットで、ASC ラベルが商品パッケージに表示されている。

  ・オーストラリア、オーストリア、ベルギー、カナダ、チェコ、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、日本、韓国、ルクセンブルグ、オランダ、ノルウェー、ポルトガル、スロバニア、スペイン、スェーデン、スイス、台湾、英国、アメリカ、ウルグアイ、ブルガリア、クロアチア、キプロス、ギリシャ、香港、マルタ、スロバキア、ポーランド、ルーマニア

水産養殖の現状

- 世界で増大する水産物需要に応えるため、水産養殖業は急速に拡大している。天然の漁業で漁獲できる量には限りがあり、その漁業資源の多くは過剰に漁獲されている。
- 世界中の水産物の半分は養殖によるものであり、水産養殖業は世界で最も急成長を遂げてい

る食料生産システムである。

- 国連食糧農業機関（FAO）は、今後 10 年で養殖は 3 倍の成長が見込まれるとしている。この急成長に伴い、現在、最善の水産養殖業を推進し、水産養殖業を責任ある水産物生産をリードする産業として確立させることが極めて重要で、ASC はそのために活動している。
- 現在、1600 万人以上の人々が水産養殖業に直接雇用されており、また数億人の人々が動物性タンパク質源を水産物に頼っている。水産養殖業従事者の生計を保障し、その労働条件を向上させることは、世界的に重要な課題である。

ASC 基準

- ASC 認証の基準は、8 年間で 8 つの円卓会議による検討を経て策定されてきた。2,000 人以上が、世界中で養殖による負の影響を減らす認証基準を策定するために、円卓会議においてそれぞれの役割を果たした。世界の水産養殖業、水産加工業、小売業、食品供給企業、NGO、行政機関、研究機関から代表者が参加した。
- 「水産養殖管理検討会」という円卓会議の成果として、12 品目の魚介類（サケ、エビ、ティラピア、淡水性マス、パンガシウス、アワビ、ムール貝、アサリ、カキ、ホタテ、ブリ、スギ）について、責任ある養殖生産がどのように行われるべきかを定義する 8 つの国際基準が作られた。2 品目が選ばれた理由は、これらの水産物の養殖が、自然環境に大きな影響を与えうると同時に、その市場価値と潜在的な国際的商業価値も高いためである。環境と社会への負の影響を最小限にする養殖業を普及することが最終目標である。

科学的洞察や管理システムと技術は全て、時とともに変化する。科学的進歩や技術開発に遅れることのないよう、ASC 認証基準は 3 年から 5 年毎（必要に応じてより早期）に、どのように、いつ、これらの変化を基準に導入するかを検討し見直される。これに責任を持つ特別な委員会として「技術諮問グループ」がある。ここには円卓会議の参加者も入る。組織全体の有効性と信頼性は、十分に開発・維持される管理基準にかかっている。従って、基準は以下の項目を備えていなければならない。

- 最新の科学的知見に基づくこと。
- 実績に基づくこと。つまり技術、管理システム、管理工程に対立させた、測定可能な実績によって定義される。それによって革新を促す。
- 測定可能であること。
- 多様であるとともにバランスのとれた、世界中の利害関係者のグループによって開発されること。
- 現時点で「最善な操業」を実施する養殖場が与える「重大な負の影響」の低減に焦点をあてること。これによって、認証過程が実現可能となり、そのような水準で現在は操業していない多くの養殖場に変化を起こすものである。

- あらゆる者がアクセス可能であること。小規模の養殖生産者が集合して認証プログラムにアクセスすることができる。

- ASC の 7 原則

ASC 基準は以下を求めている。

1．包括的な法令順守
2．自然環境と生物多様性の保護
3．水資源の保全
4．逃亡を避けることによる種の多様性及び野生生物の保護
5．責任ある調達による餌と資材の利用
6．動物の健全性（抗生物質と化学薬品の不必要な使用をしない）
7．養殖場によって影響を受ける労働者と地域社会に対する社会的責任（例　児童労働の不可、労働者の健康と安全、結社の自由、地域社会との関係）

ASC は堅牢で独立した認証プロセスを採用

- ASC は基準の管理機関であり、基準の管理運営に責任を持つ。ASC は養殖場の認証審査は行わない。認証は独立した認証機関によって行われ、これら認証機関の実績管理に関与しない。ASC は、期待された科学的社会的な利益が確実に実現されるよう、認証プロセスの影響を監視する。

- 認証プロセスのステップと構成

  - 認定と認証：ASC は独立した第三者機関による認定と認証プロセスを採用している。また ASC は、認証基準に対して信頼できる認証を保障するため、独立で堅牢なプロセスの監視を ASI（Accreditation Services International）に任命している。ASI は FSC(森林管理協議会)、MSC(海洋管理協議会)など、国際的な認証制度の認証機関の認定やその他のサービスを提供している。

  - 認証：ASC 認証の審査に合格した養殖生産者が認証を得る。状況によっては、協力関係にある養殖生産者のグループも認証の共同保有者となる。認証は ASC から直接受けるのではなく、ASC 基準に照らして養殖場を審査した独立の認証機関が行う。

  -利害関係者の関与：信頼性と独立性、これが ASC の要であり、審査過程の透明性によって裏打ちされる。審査過程の一部として、利害関係者の意見や見解が積極的に集められる（実際、認証機関は、利害関係者の意見の収集と、質問への専門的回答が求められている）。包括性と開示性の原則が確実に守られるように、すべての報告書が公開される。これは ASC のプログラムのユニークな特徴である。この原則は、また、ASC の組織構造とアプローチ方法のなかに正式に記されている。

養殖場から食卓まで

- ASC 認証は養殖場の認証だけで完結するものではない。「養殖場から食卓」まで、ASC 認証製品は完全に追跡可能である。ASC 認証製品の供給に関わるすべての企業もまた、ASC 認証を得なくてはならない（これを CoC 認証という）。これらの企業は ASC 認証水産物と他の非 ASC 認証製品とを決して混合することはできず、ASC 認証水産物はいつでも認証された養殖場まで遡ることができる。

ASC ラベル

- ASC 認証製品は、ラベルを貼付することで、自然環境と地域社会への影響を最小限にする養殖場で育てられた水産物であることを明示し、消費者が選択できるようにしている。
- ラベルは、消費者に対する力強いコミュニケーション力をもつ。積極的な購入を強く働きかけ、水産物ブランドに付加価値を与える。
- ASC ラベルは 2012 年夏に発表された。現在、ASC ラベルの付いた 750 以上のティラピア、パンガシス、サケの認証製品が 35 カ国で流通している。

ASC 認証ティラピアについて

- ティラピアは鯉に次いで二番目に重要な養殖魚のグループで、最も広く養殖される魚種である（FAO、2005-2010）。ここ 10 年間、世界におけるティラピアの養殖生産は着実に増えている。生産が集中するアジア、ラテンアメリカ、アフリカでは、2 倍以上の成長を遂げている。現在、生産量は 300 万トン以上と見積もられている。
- ティラピアの養殖は 100 カ国以上で行われ、そのほとんどが国内で消費されている。主なティラピア生産国は、中国、エジプト、インドネシア、フィリピン、タイである。
- 現在、インドネシア、マレーシア、ベトナム、ホンジュラス、コスタリカ、エクアドル、台湾に、27 の ASC 認証養殖場がある。

ASC 認証パンガシウスについて

パンガシウスの養殖生産は主にベトナムのメコンデルタに集中しているが、フィリピン、インドネシア、バングラディシュ、インドでも行われている。メコンデルタは、パンガシウスの在来の生息地域である。

- パンガシウスの生産量は、この 10 年間に 50 万トンから 150 万トンへと、急速な伸びを

示している。その半分がヨーロッパに輸出される。2011 年のドイツへの輸出量は 32,500 トンであった。

- ASC 認証基準は、メコン河の汚染、餌にする天然魚の無制限な漁獲、抗生物質の乱用、いけすでの過密養殖など、パンガシウス養殖のもつ問題点に対する一つの解決策となる。
- ASC 基準に従った責任ある養殖生産とは、1kg のパンガシウス生産に用いる飼料中の魚は、0.5kg 以下であることを意味する。
- ベトナム（人口約 800 万）の人口の 10%がパンガシウス産業に従事している。
- 現在 37 の ASC 認証養殖場がメコンデルタにあり、ASC 認証のパンガシウスを供給している。

ASC 認証サケについて

- 世界で消費されるすべてのサケのうち、2/3 が養殖で生産されている。計 240 万トンのサケが毎年、養殖されている。
- サケ養殖でリードする地域には、ノルウェー、チリ、スコットランドやアイルランドなどのヨーロッパ諸国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなどがある。
- サケの ASC 認証基準は、サケ養殖による負の影響の低減に寄与する。基準は養殖場およびその周辺の海水と海底をきれいにし、魚の健康を保ち、いけすからの養殖魚の逃亡を防ぎ、飼料の改良と社会的な責任の向上を促す。
- 2014 年 1 月に世界初の ASC 認証のサケ養殖場が誕生した。2 月にさらに 4 つのサケ養殖場が ASC 認証を取得した。これに加えて現在、ノルウェーとオーストラリアの 4 つのサケ養殖場が審査を受けている。
- 2013 年 8 月には、世界のサケ養殖産業のおよそ 70%を占めるグローバル・サーモン・イニシアティブ（GSI）が、GSI 加盟企業が経営する養殖場に 2020 年までに ASC 認証基準に基づき認証を取得することを約束した。

（2014 年 2 月現在）

http://www.asc-aqua.org/upload /130909_Fact%20sheets%20ASC%20press.pdf （WWF ジャパンによる仮訳）